

### 微小粒子状物質成分分析調査結果

平成 26 年度の調査結果は表 2-2-8 のとおりで、四季別のイオン成分、無機元素成分及び炭素成分の 3 成分を 100%とした成分比グラフは図 2-2-4 のとおりです。

調査項目の中では、硫酸イオンが最も多くを占め、次いで有機炭素、元素状炭素、アンモニウムイオンが多くなっていました。割合で比較すると、有機炭素は夏季に多く冬季に少なくなっており、硝酸イオンと塩化物イオンは冬季に多く、夏季に少なくなっていました。なお、調査期間中の自動測定器による PM2.5 の日平均濃度は、春と秋が高くなっています。

### 微小粒子状物質成分分析調査結果（平成 26 年度）

(単位：μg/m<sup>3</sup>)

項 目		春季	夏季	秋季	冬季	年度平均濃度	成分割合 (%)
イオン成分	塩化物イオン (Cl <sup>-</sup> )	0.023	0.022	0.17	0.44	0.16	1.0
	硝酸イオン (NO <sub>3</sub> <sup>-</sup> )	0.29	0.060	1.1	3.0	1.1	6.8
	硫酸イオン (SO <sub>4</sub> <sup>2-</sup> )	6.1	2.3	5.6	6.7	5.2	32.3
	アンモニウムイオン (NH <sub>4</sub> <sup>+</sup> )	2.0	0.73	2.5	3.4	2.2	13.7
	その他のイオン (Na <sup>+</sup> , K <sup>+</sup> , Mg <sup>2+</sup> , Ca <sup>2+</sup> )	0.23	0.25	0.47	0.43	0.35	2.2
無機元素成分		0.60	0.19	0.38	0.38	0.39	2.4
炭素成分	有機炭素	3.1	2.7	4.8	2.9	3.3	20.5
	元素状炭素	1.1	0.8	1.7	1.4	1.3	8.1
調査期間中の PM <sub>2.5</sub> 濃度 (自動測定器による測定値を使用)		19.9	10.9	19.9	13.7	16.1	

### 微小粒子状物質成分分析調査の四季別成分比グラフ

